週刊
明るい小矢部
赤旗 読者通信 改題
2022. 12. 25
通巻No.1587
日本共産党
小矢部市委員会
市内七社 245
Tel 67-4322
Fax 67-4842

小中学校での生理用品配置

12月議会

上田由美子市議の一般質問①

子どもの健康で衛生的な生活の保障に大切

12月議会で上田由美子市議は16日、「65歳以上の重度・中度障害者医療費の窓口無料」、「子ども医療費の石川県での窓口無料」、「消費税のインボイス制度」、「小中学校での生理用品配置」、「学校給食の無償化」、「SOSネットワーク」について一般質問しました。今週号では「生理用品の配置」について紹介します。

【上田市議】コロナ禍による不況で、女性の貧困が深刻になり、生理用品を買うことが困難な「生理の貧困」が社会問題になっています。

新日本婦人の会小矢部支部が昨年11月、市長に「小学校・中学校の女子トイレと多機能トイレに生理用品の配置」を求めました。市から「令和3年度内に各小中学校へ配布し、来年度以降も必要に応じて配置事業の継続を考えている。」と回答がありました。しかし、私が知る限りでは、小中学校で女子トイレや多機能トイレに生理用品が配置されていません。また、必要数を配置する場合の費用はどれだけですか。

【教育委員会事務局長】昨年度末に小学校5、6年生の児童数および中学校の生徒数に応じて生理用品を購入し、令和4年度当初に各小中学校に配置するよう指導した。しかし、想定していたよりも実際の消費量が多く、購入した分では不足することになったので、多くの学校では保健室の保管管理に切り替えている。消費量が想定を上回っている要因として、生理用品の持参を忘れたという理由も考えられる。

必要数配置には現在の使用状況から年9万2400円程度と見込んでいる。ほんとうに支援が必要な子どもたちが困らないよう、児童生徒への指導や配置方法を検討し、必要な数量を十分に確保していきたい。

【上田市議】これは貧困対策であるだけでなく、誰でも気兼ねなく生理用品を無償で使うことができるようにすることは、健康で衛生的な生活を保障する上で大切なことです。トイレットペーパーが個室にあると同じようにすることです。保健室に受取に行くのでは、急にトイレで必要になったときは間に合いません。この問題を積極的にとらえて、必要な金額を確保し各学校に配置していただきたい。

【教育委員会事務局長】受益者負担の立場から個人で準備していただきたい。トイレに置く目的としては、個人ではなかなか買えないという方々のためと考えている。

【上田市議】貧困な家庭が増えている。生理用品がトイレに配置され自由に使えるのであれば、多くの子どもたちは家庭の経済状況を気にしなくてもよく、自分が守られているという感情を抱くのではないか。人生の入り口に立つ児童生徒は小矢部市を魅力的な市ととらえると思う。ぜひこの立場で実行していただきたい。

シリーズ5　どうする！ストレスの多い「学校教育」

子どもも教師も笑顔の学校を

せめて30人以下学級を

学校教育の現状を根本から見直しましょう。

まず一学級の定数をせめて30人以下に(30人でも多いのですが)することで、担任の目が行き届きやすくなり、子ども一人ひとりの成長過程を確かめることができます。子どもは、肯定的な目で自分の成長を見守られ、自己肯定感を積み上げていきます。競争原理から離れ、「他人」と比べなくて良い、「昨日の自分」を追い越せば良いという大人の、学校の見方があれば、子どもは安心して登校できるでしょう。

学校は、住んでいる近くに

そのためには、一斉に進められようとしている学校の統廃合をやめることです。自分の地域に学校がなくなるのは、地域文化が無くなることと同じです。

子ども同士が、その子の家族や住んでいる所や放課後に一緒に遊べる場所や色々な情報を共有していれば、「いじめ」などとは無関係な学校生活になるはずです。いわゆる「ヤングケアラー」など、子どもも教師も容易に見つけることができます。知らない友達が多くなることは、「無関心」と「いじめ」を生むきっかけや条件になるだけです。

人権・平和を語り合えたらいいね

道徳が「道徳科」という教科になりました。「愛国心」「家族愛」「公共心」などという項目はあっても、「人権」「平和」など憲法で一番強調され多くの文言が書かれている項目は、ありません。人権の条文は、日本国憲法103条のうち3分の1を占めています。フィンランドや北欧各国のように、「主権者」として自分の考えをもつ判断材料を豊富に提供されること、自分を表現する場、友達と話し合う場が保障される学校が必要です。

子どもの「輝くもの」を見つける学校に

「良い意味でも悪い意味でも、学校で学んだことは協調性だけです」。不登校を経験し、子ども時代を振り返って話した青年の言葉です。関わってきた学校や保護者にすれば、本当に悲しく後悔の残る言葉です。「学校」は、子どもの中に「輝くもの」を見つけてやることが仕事です。その輝きを子ども自身が誇りに思い、ますます輝かせるために意欲的に学んでいく。子どもの時を思い出したら、楽しく充実した原風景が脳裏に刻まれるように、その人生をしっかり支える土台になるように「学校」を再生しなくてはなりません。

何でもご相談を

市議会議員
上田由美子
☎68−2106
Fax 68-2146

参議院議員
井上さとし

前衆院議員
藤野保史

禁無断転載
複写配布